

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	4	中芸	高等学校	課程	多(夜)
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) ○ 高等学校を卒業するという強い意志を持って努力する生徒 ○ 物事を主体的に考え、進路目標に向かって粘り強く取り組む生徒 ○ ルールやマナーを守り、何事も責任感と協調性を持って取り組む生徒 ○ 友達や周囲の人に思いやりの心を持ち、相手の立場に立って行動する生徒 ○ 仕事と学業を両立させ、学校生活を積極的に送る生徒			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○生徒一人一人の興味関心、進路希望に応えることができるよう、少人数授業によるきめ細やかな指導を行う。 ○保護者との連携、聴講生制度、就労への支援等を通して、学校と地域の活性化を目指し、地域に根ざし、地域の「学び」の拠点となる活動を推進する。 ○SC、SSW、各専門機関との連携により、生徒の悩みや相談等に対処できる支援体制を構築する。 ○生徒同士や聴講生、県立山田特別支援学校田野分校との交流を図り、多様な個を認め合う、共生社会意識の育成を推進する。							
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○基礎的・基本的な知識や技能、主体的に学ぶ力や課題を解決する力、豊かな人間性・社会性。○基本的生活習慣を確立し、社会的自立や社会で必要な力。○コミュニケーション能力などの社会性や表現力等を身に付け、他者を尊重して協働する力や社会生活に積極的に関わる姿勢。○様々な活動や学校行事を通して、積極的に行動する力や自己肯定感を高め、自分を大切にする姿勢、周囲への思いやりの心。										
スクール・ポリシー				学校関係者評価							
				【学力の向上】 評価 【 B 】 目標に若干届いていない項目もあるが、令和5年度より向上している項目もあり、一定の評価ができるのではないかと。							
				【社会性の育成】 評価 【 C 】 パソコンの普及は、頭を働かせる人間の力を弱めていないか。生徒と先生の人間的な交流を大事にしてほしい。							
				【チーム学校】 評価 【 A 】 生徒と大人が共に学ぶ聴講生制度は、双方にとって良い状況を生み出していると思う。さらに生徒が大人と関わり、交流して学べると良い。							

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分								
		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	○1・2年学びなおし確認テストの成績向上 R5年度 1月 国96.0 数68.0 英46.5 →R6年度 1月 国98.0 数70.0 英50.0 ○夜間部アンケート「授業はよく理解できる」の肯定的回答向上 R4(81%)、R5(63%)→R6(85%) ○「年間総欠席数」の減少 R1(248)、R2(347)、R3(177)、R4(322)、R5(489)生徒数20 →R6(200)生徒数13	○授業改善週間の設定(年2回) ○NIE(8月:国語科) ○ICT機器を活用した授業の実践 ○0時間目を活用した、1年次生対象の英数国のトレーニング講座による基礎的内容の復習と定着 ○理・社の基礎学力向上講座(8月・12月) ○欠席0週間の設定と呼びかけ(教務) ○全教員による授業規律の確認と指導	C ○第1回確認テスト結果 国84.4 数55.6 英43.9 ○夜間部アンケート「授業はよく理解できる」肯定的回答 4月71.4% 9月80% ○年間欠席総数100(7月12日現在)(生徒数15名) ※授業規律については今後も指導が必要。	○授業改善、ICT機器活用の推進(現状把握と改善) ○基礎学力向上講座の実施 ○欠席0週間の呼びかけの継続 ○全教員による授業・集会・個別での授業規律の指導の継続 ○家庭との連携	B ○ICT機器活用状況 80% ○1・2年生の確認テスト結果 1月 国92.7 数66.7 英53.3 ○「授業はよく理解できる」肯定的回答 1月77%(R5年度比+14ポイント) ○年間欠席総数(2月14日現在)278 ○授業規律は、以前より落ち着いてきたものの、今後も指導が必要。	・全教員による授業規律の指導を継続するとともに、学びに向かう姿勢、学ぶ意義等についても指導していく。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○「学校生活は充実している」肯定的評価(夜間部アンケート)R4(75%)、R5(68%)→R6(75%) ○「相手の気持ちを考え、自分の気持ちをわかりやすく伝える」肯定的評価(夜間部アンケート)R4(75%)、R5(79%)→R6(85%) ○自己目標発表「やります宣言」目標到達度 R2(61%)、R3(87%)、R4(63%)、R5(63%)→R6(70%)	○進路指導担当による、なんこく若者サポートステーションと連携した出張セミナー ○観月会(国語科)、ものづくり教室(生徒支援部)などの聴講生交流行事 ○進路指導担当による企業・学校見学 ○進路指導担当による「やります宣言」(目標設定、中間振り返り、年度末自己評価)	C ○「学校生活は充実している」肯定的評価 4月78.6% 9月66.6%:※他者との人間関係が、学校生活に影響していると思われる。 ○「相手の気持ちを考え、自分の気持ちをわかりやすく伝える」肯定的評価 4月78.6% 9月73.3%	○進路関係行事や活動の計画的かつ円滑な実施 ○文化祭に向けての活動等の支援	C ・学校生活は充実 1月61.5%(R5年度比△6.5ポイント) ・相手の気持ちを考え、自分の気持ちを分かりやすく伝える。 1月61.6%(R5年度比△17.4ポイント) ・アルバイト経験者数 10名(71%) ・自己目標到達度 9月56.8%、1月53.7%(R5年度比△9.3ポイント)	・人間関係づくりに課題が見られる生徒が多い。授業や行事等、様々な機会を活用して指導・支援をしていく必要がある。 ・アルバイトは今後も推奨する。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の増加(県オリジナルアンケート)R5(2回目)26.3%→R6 50% ○「新聞やニュースを見る」の増加(夜間部アンケート)R5年度(3回目)47.4%→R6 50%	○政治的教養を育む教育(6月)・・・模擬選挙等 ○総合発表会(2月)・・・地域課題探究	C ○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」肯定的回答1回目46.7% ○「新聞やニュースを見る」肯定的回答 4月50% 9月40% ※地域や社会の一員であるという意識をさらに喚起していく必要がある。	○地歴公民科の授業におけるニュース調べ活動の継続 ○総合発表会に向けての指導	B ○「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」6名46%(R5年度比+14ポイント) ○「新聞やニュースを見る」4名31%(R5年度比△16ポイント)	・授業等でのニュースや新聞の活用を継続する。 ・日々の挨拶やマナー等についてもその大切な点も含め、繰り返し指導していく。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○評価指標:各取組への参加・出席人数割合90%以上 ・NIE R5(85%) ・校内生活体験発表会出席 R5(85%) ・総合発表会・発表 R5(80%)	○NIE(8月) ○校内生活体験発表会(9月) ○総合発表会(2月)	C ○参加・出席人数割合 ・NIE:休校により未実施 ・校内生活体験発表会出席率73.3%:※取り組もうとせず欠席してしまう生徒への指導が課題	○NIE(2学期実施予定) ○全教員による総合発表会の指導	B ○NIE出席12名80%(R5年度比△5%) ○校内生活体験発表会11名73.3%(R5年度比△11.7ポイント) ○総合発表会 出席9名(64%)、発表6名(43%)	・出席者の多くは真面目に取り組み、他者から学ぶこともあったと推察できる。活動の意義やこれまでの成果等にも着目させて指導を継続したい。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○地域に根ざした学校として、リカレント教育・生涯学習の場である聴講生制度を推進	○聴講生数の増加 R3(25名)、R4(19名)、R5(20名)→R6(25名) ○聴講生授業満足度の向上(公開授業アンケート) R4(81%)、R5(79%)→R6(85%)	○総務係による聴講生募集(新聞折込チラシ、近隣自治体の広報誌への募集掲載依頼:3学期) ○管理職による聴講生受講講座の巡回(1・2学期、各1回以上) ○管理職と授業担当者、聴講生との情報交換(年2回以上)	B ○聴講生数 R6(22名) ○聴講生授業満足度(公開授業アンケート)6月87.1% ※R5年度と比較し、授業満足度が向上した。	○管理職による聴講生受講講座の巡回および授業担当者との情報交換	A ○聴講生授業満足度(公開授業アンケート)9月93%(R5年度比+14ポイント)※多くの聴講生が、考え方や行動にプラスの変化があったと回答	・聴講生制度以外にも三修制による卒業生数も評価指標に追加する。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題:不祥事未然防止のための意識徹底 ○校内研修の実施回数(年3回以上) ○不祥事防止委員会の実施回数(年3回以上)	○不祥事に関する通知文書の周知徹底(随時) ○個人情報保護に関するチェックシート等の実施 ○メンタルヘルスサポートのための教頭面談(年2回以上)	B ○不祥事校内研修(10回) ○不祥事防止委員会(2回) ※研修、情報共有など実施できている。	○不祥事防止研修の計画的な実施 ○適宜、情報共有や注意喚起	C ○適宜、注意喚起・情報共有ができています。 ○不祥事校内研修(15回) ○不祥事防止委員会(7回)	・不祥事防止の意識を維持するため、情報共有・注意喚起を継続する。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○風通しの良い、開かれた職場環境づくり ○相談体制の確立	○R5年度 業務外勤務時間45時間以上 1月1名 ○課題:分掌業務・係とホームルーム担任など1人で複数の業務を抱えざるを得ない状況があり、負担が大きい。 ○評価指標:時間外業務 月45時間以上0名	○職員会のパソコン活用、文書のメール配付等による、印刷時間の短縮とペーパーレス化の継続 ○教員間の業務サポートの推進 ○教頭による業務負担状況の確認(年2回以上)	B ○時間外業務 月45時間以上0名 ※1学期末、教頭面談実施	○管理職による業務の負担状況の確認	B ○時間外業務 月45時間以上0名 ○業務の偏り、負担・負担感の軽減等は十分にはできていない。	・業務の負担や負担感の軽減に向け、管理職はこまめに教職員の話に耳を傾け、風通しの良い職場環境づくりに取り組む。